

いじわるなたい風

小・2 松本 ひろあき

ぼくは、なつ休みにふくしまけんに行くのを楽しみにしていました。ふくしまけんは、ぼくがすんでいるあい知けんから遠くて、行くのに時間がかかるので、長い休みの時じやないと行けません。だから、ぼくはずっと前から早くなつ休みにならないかなと思っていました。それなのに、もうすぐおばあちゃんちに行けるという時になつて、お母さんが、

「やっぱりおばあちゃんちに行くのは、やめよう。」
と言いました。お父さんも、

「たい風が来ていて電車がうごかなくなるかもしれないから、またこんどにしよう。」

と言いました。ぼくは、がっかりしました。いとこと海でつりをするはずだったからです。ぼくは、お父さんたちにもんくを言いたかったけれど、おねえちゃんがだまっていたので、やっぱり言うのをやめようがまんしました。

夜になつて、おばあちゃんからすぐにでんわがかかってきました。「ぎんねんだけど、あぶない目にあうといけないから、しかたがないね。」

と言っていました。ぼくは、おばあちゃんもショックでかなしいだろうなと思いました。こんな時にくるなんて、たい風はいじわるだと思ひ、にくたらしかつたです。

つぎの日、家ぞくみんなでえきに行つて、新かんせんのきつぷをキャンセルしました。帰りにスーパーによつて、たい風にそなえて、ごはんのざいりようとおかしをたくさん買いました。

次の次の日、たい風がきて、大雨がふりました。雨のつぶがまどに当たつて、ブザブザと音がしていました。バチバチバチバチとやねに雨が強く当つていました。ババババシヤンと車が水をはねる音もしていました。すつごくうるさかつたです。

それから一日がたつて、たい風はどこかへ行つてしまつたけれど、ぼくはふくしまけんに行けませんでした。またこんどつてお父さんが言つていたけど、いつかなあと考えていたら、げんかんに小づつみがとどきました。ふくしまけんのまさよおばさんからです。まさよおばさんはいとこのゆうくんのお母さんです。小づつみの中みは、色いろなくだものあじのゼリーとすっぱいりんごあじのあめ玉が三つ入っていました。あめは、ゆうくんからだとすぐに分かりました。あめをなめていたら、早く会いたくなつてお母さんに「いつ行けるの。」

と聞いてみたら、

「九月か十月に会えるよ。」

と言つていました。ぼくは、つぎもまたたい風が来たらゆるさなぞ、たおしてやると思ひました。いとこのゆうくんにぼくのすきなパチパチのおかしを大きなふくろに入れてたくさんもつて行こう。たくさんじゅんびするぞと楽しみになつてきました。ゆうくんよろこんでくれるといいなあ。

「たい風、こんど行く時はぜつたいいじわるするなよ。」

